

2 信濃小中学校の成果と課題として出された意見③

	成 果	課 題
児童生徒	①いじめや問題行動が少なく、落ちついた優しい子が多い傾向にある。また信濃町を好きな子が多い。 ②全国学力調査の結果、6年生から9年生にかけて正答率が毎年向上している。 ③社会や知らないことに対する興味関心、友達との学び合いについて意識が高い傾向にある。	①困難なことに挑戦したり、自ら解決したりする意欲に欠ける傾向がある。将来の夢や希望を抱くことができない子どもが多い傾向もある。 ②全国学力調査の結果、6年生は全国平均からやや低い傾向にある。また年度によって全国学力調査の正答率の差が大きい。
行事日課	④文化祭や運動会等の行事に小学生と中学生が一緒に参加できるなど、異学年による学び合いがしやすい環境にある。 ⑤5年生から教科担任制であるため、専門的な指導を受けることができる。 ⑥地域学習の素材が豊富にあるため、学校への地域理解が高く協力が得やすい。	③学校行事が多く、冬日課になると5時間授業になるので、教科学習の時間確保が難しい。 ④授業時間が、初等部45分、高等部が50分と異なっているため、小中一貫教育の良さである小学校と中学校の教職員の交流が持ちにくい。 ⑤スクールバスの運行時間が学校行事の実施に影響を与えている。 ⑥地域素材が多いので、すべてをふるさと学習に取り組むことが難しい。
教員体制	⑦教職員は、日常的に小学生と中学生に接することができる。そのため、9年間の子どもの成長を考えられるなど、教員として学びが多い環境にある。 ⑧町費の講師、支援員が多く配置されている。教職員数が多いため、部活顧問の一人あたりの負担が少ない。 ⑨通級指導教室やリソースルームなど個別支援が手厚い。学校以外の専門職などの地域支援と連携がしやすい環境にある。 ⑩一人一人の子どもの支援会議が丁寧に行われている。	⑦初等部と高等部と一緒に話し合う機会が少ない。また、小学校文化と中学校文化が融合した独自の義務教育学校の文化をつくることが難しい。 ③義務教育学校独自のシステムに慣れた教職員が異動すると、転入した教職員には、義務教育学校の教育方針や理念が浸透しづらい。 ⑨特別支援の場が複雑で全教職員が支援の仕組みを理解することが難しい。 ⑩通常学級でのユニバーサルデザインの工夫が一部の学級で行われているが、全学級へ広がっていない。また特別支援学級の在籍率が全国や県と比較して高い。



長野県信濃町（人口約8千人）は、平成24（2012）年4月に、5つの小学校と1つの中学校を合体させ、町

で一つとなる小中一貫校（義務教育学校）を設立しました。

取組の経過は、『山と湖の小さな町の大きな挑戦』（学文社）という本にもなっています。本の中では、少子化と学校建設費の問題から、小中一貫校が選択されたことが述べられています。

平成30年度に「第三者評価検証委員会」を設置し、令和元年度に報告書が出され、課題も多くあげられています（左記・一部掲載）。

信濃小中学校の成果と課題

民報
藤島

2023年11月12日
第1422号

編集発行
日本共産党藤島支部

生活相談所
加藤鉦一（宝徳）
Tel.0235-64-3941
携帯090-8929-4221
HPは「藤島 加藤鉦一」と検索で入力を。

発行経費にカンパをお願いします。民報配布者にご連絡下さい
(月200円程度)
11月 22人 16,200円
10月 33人 14,720円



11月2日深夜の1時9分頃、八色木平田31で住宅に落雷し、2階屋根から炎と煙を確認。消防車両が出動しました。雷注意報が発令され、羽黒や櫛引地域には降雹もあり、庄内柿に被害が広範囲に発生しました。

ふるさと賛歌 11

鈴木重雄（八色木）

8回目の干支を迎えて
「英語とダンスはまるでダメ。出された料理は残さず食らう。たのまれた仕事は真面目にこなす。応用きかぬが玉にキズ」
小説家渡辺淳二氏（医学博士・文学博士）の昭和・一桁生まれの一文である。
私は昭和2（1927）年10月9日、旧松山町山寺の生まれで、8回目の干支を迎えた。満96歳である。
山寺と八色木は、最上川を挟んで3里半位の道のりである。
こんな離れた村と縁があったのは、私の祖母が5人の子どもを残して他界し、後妻が来て、後妻の親戚である山寺の三浦家から母が嫁に来た。
母は三浦家の長女で、弟3人の4人姉弟である。
祖母は、近くに嫁がせて何かと頼りにしたかったと思うが、八色木までとは、心情察するばかりである。
私が生まれた昭和初期は、東北地方を襲った冷害で、娘を売る子どももあった。次三男は新天地を求めて、満蒙開拓に渡った。
やがて満州事変（昭和6年）、支那事変（昭和12年）、太平洋戦争（昭和16年）となり、農村不況と戦争に明け暮れた青少年期を過ごした。
私は、村で育ち、職場も地元であったので、まったく井の中の蛙である。
喜怒哀楽を共にした友だちの多くも鬼籍に入り、語る術もない。余命幾許もない私であるが、ふるさと、そして世界も、未来永劫穏やかであることを願うばかりである。
（追記）先日発行された『写真が語る庄内の100年』（いき出版）に、「二、昭和戦前の街並み―米倉庫の思い出」として、拙文が掲載されました。

藤島イルミネーション 3日から6年1月8日 まで

藤島歴史公園H i s u花（ヒスカ）で3日夜、イルミネーションの点灯式が行われました。

H i s u花ワークショップ（井上夏代表）が主催し、キッチンカー10台や飲食店も設置。いなば幼稚園の園児が点灯カウントダウンで、約15万球のLEDが輝きました。

天気にも恵まれ、多くの若者や子ども連れで賑わいました。



東田川史跡物語 『駐鑾之碑』⑤

青山 崇

是に於て、郡長石井武雄、郡書記鈴木重光、中村有行、吉田哲茂、戸長（現在の町村長）五十嵐九兵衛、加藤三七、石栗六内、富樫信好、議員齊藤良輔、石川養貞、齊藤多右衛門、本間多右衛門等は、郡と一緒に（與）、むらの長老（父老）と謀（はかり）相談し、郡役所の盛事（記念すべき事）を記した碑を建てようと思った（欲す）。縣令折田平内君を因（たよりにし）、私は文を書いてもらうことを依頼した。

羽前・羽後の出羽国

について考える（顧みる）と、東山道の一隅の僻地に在る。田川郡は月山・朝日の二山を画し最上川に及ぶ。かつては荘内藩に属した。今回、東西二郡に分け、三郷（郡）に二百九十三村がある（隸は所属の意味）。行（行幸）に際し、聖代（天皇治世の世）は道路が開かれ、舟や車が便利になった。郡民は七千六百金を徐々につくり出して（醸す）かもす、郡衙を建て、極めて立派で美しい郡役所である（輪奐よりんかん）建物が広大で壮麗なこと。

注記1、於是 是に於いて…この機会に
2、郡長石井武雄 鶴岡士族の家に誕生。父と北海道に渡る。北海道6郡の郡長務、1883（明治16）年帰郷、3、「文を属（しよ）くす」文書を書くこと。
4、東山道 現在の滋賀・長野・群馬・福島・宮城・岩手・青森・山形・秋田の各県に分けた古代の行政区。国内では東海、東山、北陸、山陰、山陽、南海、西海の七道がある。
5、羽前・羽後国 私

の母校校歌の始めは「羽前三山虚空を凌ぐ」である。また駅名に羽前大山、羽後本庄などがある。奈良時代に定めた律令国は68国であった。それが戊申戦争の結果、1868（明治元年）、陸奥国が陸奥・陸中・陸前・磐城・石代に、出羽国が、最上川の南を羽前、北を羽後に分けたからである。出羽国は三郷（東西田川・飽海の三郷）、一百九十三村がある（隸は所属の意味）。



経済良くなるかゝ

鈍音なだおとが大きいのは鈍

が切れないからだと言われるが、「異次元」とまで言った少子化対策は、どうなってるんだが。経済の連呼も大きな鈍音に思えるのだが、▲首相が言う経済って何なのかは俺には解らないが、減税でも還元でも給付でもどっちでもいいんだヨ。俺達国民が暮らし易くなるのならサ。ところが、与党内からも喜ばれていない中身のような？

▲この一年、全ての物価が上がったでしょ。賃金も例年よりは上がった。でも、暮らしが楽になる程のものではなかった。その対策の一つ、ガソリンの値引きには金を使ったが、ドル高・円安対策は？あ・こっちは日銀かナ。▲どっちにしろ、物価高で今の暮らしに困っているのに、4万円の

減税とか、7万円の給付とか、来年の6月・7月の話で侃々諤々かんかんがくがくじゃ困りますヨ。せめて正月のごつつお買うなき間に合わせてもらわねばンナ。それに、年金暮らしの人はどうなるんだか。引くもの全部引いた残りをもらっているんだからサ。▲新聞テレビで見る文章・「物価高から国民生活を守るため、扶養家族を含めて1人当たり所得税3万円、住民税1万円の計4万円の減税を実施」。これが判らねーンダ。

▲扶養家族を含めて1人当たり・とは？扶養されている人は税金を出していいんださげの、どういうことなんだ？貴方は分かる？ 分かりやすく公平なのは消費税を5%に・だ。

▲国会では、少子化対策の金の捻出先・大軍拡の増税に困っているから、選挙対策ではないのか・とも。（石川）